

平成30年度・令和元年度 大島地区「指導方法改善」研究協力校
龍郷町立大勝小学校 公開研究会

研究主題 主体的に問題を解決していく子どもの育成
 ～ 算数科における学習指導方法の工夫・改善を通して ～

Q1：授業では、どのような取組をしているのですか？

A1：算数科の系統性や算数科と他教科等及び生活経験等とのつながりを踏まえた授業を計画し、「数学のよさ」に気付かせ、実感する学びを展開することを目的に「つなげる手立て」を位置付けています。

1 「既習事項や日常生活の事象をつなげる学習課題の設定」

第5学年「単位量あたりの大きさ(5/11)」

今度行く宿泊学習の課題だ。部屋のこみ具合を考えるんだね。楽しそう！

3 「学び合いの場面における、教師の発問の工夫」

第2学年「三角形と四角形(11/14)」

＜長方形を2つの直角三角形に分けるために直線を1本引いた場面＞
 教師：「どうしてここに直線を引けばできるの。」
 子ども：「2つの直角三角形ができるから。」
 教師：「本当に直角三角形？」(しばらく、ペアで話し合いをした後)
 子ども：「もともとは長方形だったから、この角のところは直角です。だから、三角形に切っても、同じ場所だからここは直角です。だからこの形は、直角三角形です。」

既習事項とつながりながら図形の構成要素に着目させたり、直角を意識して切ることの正確性や図形の美しさに気付かせたりできるような発問の工夫に取り組みました。

教師の発問が再考を促し、子どもの思考の中にある見方・考え方を可視化することができました。

2 「問題解決に必要な情報を取り出し、活用する場の工夫」

第3学年「あまりのあるわり算(2/6)」

あまりのあるわり算の答えの確かめは・・・そうだ、ノートで振り返ってみよう(情報の引き出し)。かけ算でできそうぞ。だし算を使ってでもできそうだね(活用)。

4 「振り返り活動「せなつこ」の設定」

第4学年「1けたでわるわり算」の単元終了後の「せなつこ」(一部抜粋)

せ ・筆算のやり方を覚えること・最初は筆算が遅かったけど、早く解けるようにならばよかった。
な ・わり算の筆算は一番大きいから始めること、0のときは、0の書き忘れがないか確かめる。
つ ・生活の中でわり算をしたい。・筆算の後に確かめをしたい。
こ ・商に0があるときは計算しなくてもいい。・筆算の仕方や説明がいいと思った。

「せなつこ」は子どもが多角的かつ具体的な学習の振り返りができるように4つの視点を設けています。子どもたちの「せなつこ」から、数学のよさへの気付きや学んだことの活用への意欲などを読み取ることができました。

がくしゅつふりかえり
せ いっぱいがんばったこと
な るほど！とおもったこと
つ ぎに がんばりたいこと
こ れいいな！とおもったこと

5 「単元を通して気付かせたい『数学のよさ』と、関連教科・関連領域等の指導計画への位置付け」

第1学年「10より大きいかず」の単元指導計画

過程	主な学習活動 【】…主な数学的活動	実感させたい数学のよさ				関連教科・関連領域等
		知・技	思・判	表・処	表・処	
20までのかず(4)	1 数の数え方を工夫し、ブロックで「10のまとまり」をつかって、教える。 【具体物を用いた操作的・作業的活動】		○			・ あさがおの種を数える場面(生活科)
	2 卵やあさがおとブロックを対応させて、数を書き表す。 11から20までの数の数え方、書き方を知り、練習する。 【学んだことを生かして問題に取り組む活動】				○	・ 前時で学習した10のまとまりの考え

緑色の囲みは、単元を通して気付かせたい「数学のよさ」です。「数学のよさ」を明らかにし、指導計画に位置づけることで、「数学のよさ」を意識した授業の展開につながっていました。

赤色の囲みは、第1時の学習内容を生活科と関連させる計画です。生活科であさがおの種を数える際に、算数科で学習した10のまとまりの考え方を使得って、正確に数えることができることに気付くとともに、算数科で学んだことを生活科でも活用できることを実感することができました。

Q2：環境面では、どのような取組をしているのですか？

A2：子どもの主体的な学びを支える学習環境を充実させていくために、学習指導、算数環境、言語活動、家庭学習の4つの視点で取組を行っています。

1 「学習指導の充実」

- (1) 授業力向上チェックシートの活用
⇒ 教師のセルフチェックの習慣化
- (2) 学習のきまりの活用
⇒ 発達段階に応じた決まりの習得

2 「算数環境の充実」

- (1) 算数科コーナーの充実
- (2) 算数への興味・関心を高める校内環境づくり
⇒ 既習内容の掲示や関連図書の設定

3 「言語活動の充実」

- (1) 聴き方名人、話し方名人の取組
⇒ 発達段階に応じた言語活動レベルの明確化

4 「家庭学習の充実」

- (1) 授業と家庭をつなげる家庭学習の工夫(生活習慣・家庭学習アンケートの実施)
⇒ 家庭生活・学習の定期的な見直し

公開授業及び全体会・分科会の様子

	公開授業	分科会	全体会
第一学年			
第四学年			
第六学年			

研究公開に参加された先生方より

- 主体的に学ぶためには「学びたい」という気持ち、学んだことを「他にも生かしたい」「生かせないか？」を考えさせることがやはり大切だと思います。
- 「つなげる」「学び合う」を意識した授業づくりはとても参考になりました。
- 他教科の関連や話し合い活動の進め方、エラーケースの取り扱いなど多様な意見が出ました。自校でも実践してみたいと思います。